

メッセージアウトライン

ローマ 2：1～11「神にえこひいきはない」

[1-3]他人をさばくすべての人々に対する神のさばきの原則が明らかにされていく。

他人をさばく人には弁解の余地がない。なぜなら他人をさばくことによって自分自身を罪に定めている。その理由はさばいているそのあなたが、それと同じことを行っているからだ。→ガラテヤ2:14 主イエスもそのことを厳しく戒めておられる。→マタイ7:1～5

そのようなことを行っている人々には神のさばきが正しく下る。自分は免れると思っ
てはならない。人はごまかせても神はごまかすことはできない。

[4-5]神は豊かな慈愛をもって偽善的な人間を悔い改めに導こうとされている。神の慈愛とはその後と言われている慈愛と忍耐と寛容のすべてを含む神の善なる性質と親切のこと。しかし罪ある人間はそれを軽んじる。そのようなかたくなさと悔い改めない心を持ち続ける者は、神の怒りを自分のために積み上げているのである。そしてそれは世の終わりの神の正しいさばきの現れる日に破滅をもたらすことになる。

[6]「神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります」

ここに神のさばきの原則が宣言されている。

[7-8]「忍耐をもって善を行い」とは特に迫害と困難の中にあつて忍耐しながら、神と人
とに喜ばれる生活をしているクリスチャンたちの生き方を指す。そのような人々は神の
本質に深くかかわる栄光、誉れ、不滅のものを深く求めて生き、決してこの世的なもの
だけを求めて終わることはない。このようなクリスチャンに神は永遠のいのちを与えら
れるのである。「党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者」とは誤った選民意識
と宗教的伝統のゆえに党派心のとりことになっているユダヤ人たちのことを指していると
思われるが、もちろんそれ以外の人々にも当てはまる。そのような人々には神が怒りと
憤りを下されるのである。

誤解してはならないことはクリスチャンは良い行いをするから救われるというのではな
く、イエス・キリストを信じる信仰によって救われているから良い行いが出てくるとい
うことであり、あくまでも人は主イエスを信じる信仰によって救われ義と認められると
いうことである。

[9-10]ユダヤ人でもギリシヤ人でもどのような人でも悪を行うすべての人の上に患難と
苦悩が下る。逆にユダヤ人でもギリシヤ人でも善を行うすべての人すなわちクリスチャ
ンには栄光と誉れと平和がある。不信仰者でも善を行うが、ここでは今まで見てきたよ
うに信仰から出てくる良い行い、善のことを指している。

[11]「神にはえこひいきなどはないからです」

真実な神は特定の人物や民族をえこひいきして特別扱いされるということはない。神は
ただイエス・キリストを救い主と信じる者を救おうと定められた。それゆえどのような
人でも彼を信じる者は救われ、良い行いをもすることができるようになる。しかしイエ
スを信じ受け入れない者は神のさばきにあわなければならない。まさしく神にはえこひ
いきはないのである。